

2.1.2 地形発達史

地形と表層地盤の関係を把握するために、後期更新世以降の神栖市域における地形発達史をまとめた。

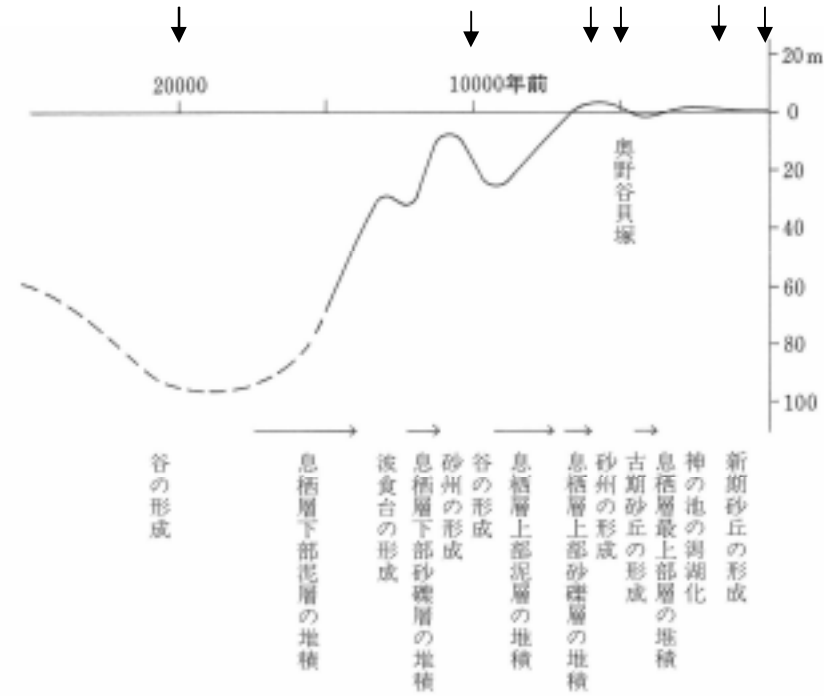


図 2.1.3 神栖地区における海水準変化曲線（出典：『神栖町史』神栖町、1988）

20000 年前

海水準は現海面下 100m以下まで下がっていた。現鹿島湾付近に台地があり神ノ池東方と深芝から息栖にかけての地域に深い谷が刻まれていた。その後、海水準が上がる過程で谷部に泥層が堆積し、北の台地の砂礫が洗い出され、付近に砂洲を形成した。

10000 年前

海水準は現海面下 30m程度となる。神ノ池付近に南北に走る谷が、深芝の北に東西に走る谷があった。

6000 年前（縄文海進）

海水準は海拔 5m程度となる。ABトラック付近は水没し波食台（平坦面）が形成された。谷部は溺れ谷となり泥層が堆積した。

5000 年前

海水準がやや下がり、ABトラック付近が陸化した。この時縄文人が奥野谷貝塚をはじめとするいくつかの遺跡を残した。

1400 年前

東の鹿島灘と西の常陸利根川付近の沿岸も砂の供給による堆積が進み神ノ池は淡水池となった。

現在

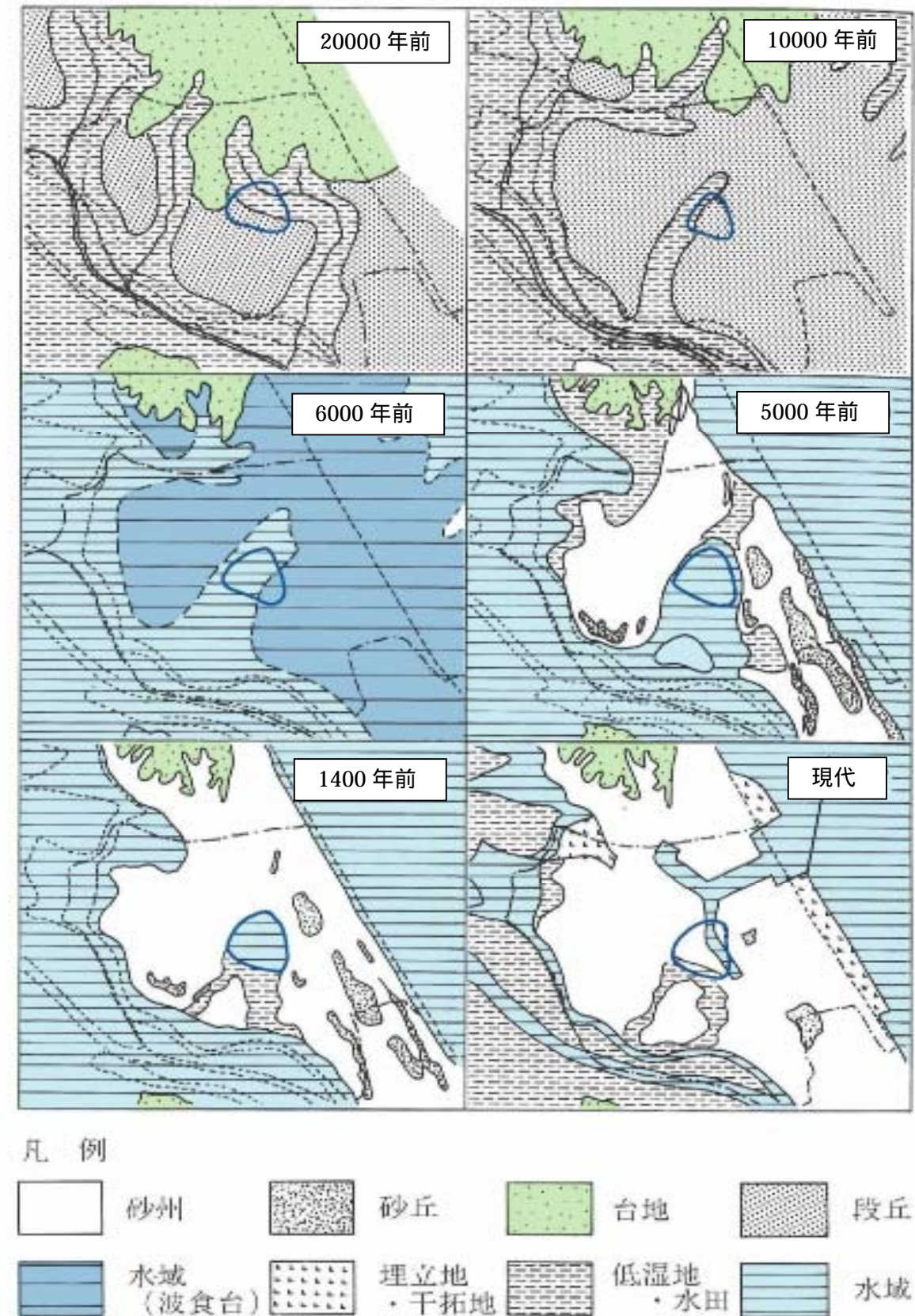


図 2.1.4 古地形変遷図（出典：『神栖町史』神栖町、1988）